



「地域力」こそが最大の備蓄！

—志村第四中学校区青少年防災学習会—

～板橋区立志村第四中学校

夏休みに入っすぐの土日、7月19日から20日にかけて、志村第四中学校区青少年防災学習会が開催されました。この学習会は、志村第四中学校区の地域と中学校の生徒が新潟県中越地震を体験した人たちと交流しながら防災について学ぶとともに、中学生に地域の一員としての自覚と社会性を育むことを目指しています。

自治会、志村第四中学校生徒会とPTA、警視庁や消防庁、志村消防団、ボーイスカウト板橋第10団、関係のNPO団体、企業など、まさに地域全体が一丸となり、さらに新潟県中越地震の際に義援金を送ったご縁から、新潟県十日町市の方々からも積極的な協力を得て、実施されました。

学習会初日の19日は、関東地方の梅雨明けが宣言され、夏休みを象徴するようにカンカン照りの暑い日でした。

午後1時の開会式では、志村第四中学校吹奏楽部の元気のいい演奏と歓迎の拍手が、十日町からの参加者を迎えました。そして、1泊2日の短い間ですが、ともに防災訓練を行いながら交流を深めていきました。

実行委員長である地元町会長の半田さん、志村第四中学校中澤正人校長先生のあいさつに続き、生徒会代表から十日町の中学生の皆さんと一緒に学べることの喜びと、「今までやったことのない」体験学習への期待があいさつの言葉として述べられました。

十日町の参加者からは、被災をした際の安全・安心の「もろさ」の実感、「自分の命は自分で守る」ことはまさに「生きる力」であることなど、当事者ならではの迫力と説得力のあるあいさつがありました。

開会式終了後、近くの志村城山公園へ場所を移し、NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばしの協力で、中学生の手による高齢者や障害のある人など、特に支援が必要な人への災害時の対応などの要援護者避難誘導訓練でした。車椅子からリヤカーへの移動、階段の上り下りの支援などを汗をかきながら実践しました。この経験を通して、災害時、地域には様々な

車椅子の方の階段上り下りの訓練です。



けが人を担架で運びます。声を合わせて傾かないように持ち上げます。

支援を必要としている人がいること、その場面で中学生でも地域の一員として人助けができることを学びました。また、協力してくださった障害のある方々は、中学生が地域の防災訓練で要援護者への対応を学ぶことの意義について賛同してくださった方々でした。

校庭では、はしご車体験、起震車体験、消火体験などの防災活動訓練の実施や、夕方に向けて、災害時用風呂「志村の湯」の準備、PTAの皆さんによる夕食の炊き出しの準備が始まりました。

夕食後、涼しい風が吹きはじめた午後6時から、体育館で講習会・タウンミーティングが開催されました。

タウンミーティングは、テーマを「地域と青少年の協働による災害時における地域力の向上を目指して」とし、地域住民、行政、中学生を交えた意見交換が行われました。いざというとき、地域とともに青少年はどのように行動するべきかについて学び、日頃からともに活動できる場を持ち、コミュニケーションをとることの必要性について考えました。

他にも、体育館においての展示学習、「中学生の防災」ポスター・アイデア☆コンペなど、様々な工夫が学習会を盛り立てました。夜は、校庭に立てたテントで宿泊訓練をし、翌日の朝食は中学生がアルファ米などを調理する炊き出し訓練と、二日間にわたる学習会は盛りだくさんのプログラムをこなしました。

タウンミーティングで半田実行委員長の「“地域力”ってなんだろう？——今日のような防災訓練学習会をはじめ、地域全体が参加できる場、コミュニケーションの場をいかに多くつくるかということだと思いました。子供たちはいずれは大人になって地域を背負っていくことになる。そういう子供たちを大人たちは信頼して、育てていくことが大切だと思います。次世代に『俺たちにもなにかできる!』と思ってもらえるような機会を地域で作っていかねばならないと思います。」という言葉がとても印象に残りました。

※「地域力」を活用した青少年の育成事業

心豊かで、社会性のある青少年を育成するため、町会、自治会、地元経済団体、地元企業、地元金融機関やNPOなどと行政との連携の下に地域を挙げて青少年の育成事業に取り組むことを通じ、地域の教育力の向上を図る。